

第2回富山県立大学看護系大学院等設置検討委員会議事概要

1 日 時 令和2年10月19日(月)13:30~14:27

2 場 所 富山県立大学富山キャンパス教育棟教授会室

3 出席者(全員出席、委員は五十音順)

委員長 野田 八嗣(富山県公的病院長協議会会長、済生会高岡病院長)

委員 岡本 里美(富山県公的病院看護部長協議会会長、中病看護部長)

〃 加藤真理子(富山県訪問看護ステーション連絡協議会会長)

〃 春山 早苗(自治医科大学看護学部長)※オンライン参加

〃 菱沼 典子(三重県立看護大学理事長・学長)※オンライン参加

〃 馬瀬 大助(富山県医師会会長)

〃 松原 直美(富山県看護協会会長)

アドバイザー

尾形 裕也(九州大学名誉教授、元東京大学政策ビジョン研究センター特任教授、元厚生省健康対策局看護職員確保対策官)※オンライン参加

4 議事の経過概要

大学院・専攻科の設置が必要であるとの意見を全会一致で了承した後、設置後の大学院・専攻科のあり方(教育課程、入学定員等)について自由討論した。

○第2回検討委員会了承意見

(大学院)

専門的な知識を持ち、リーダーシップのある専門看護師など、より高度な看護人材を育成し、供給するため、富山県立大学に大学院看護学研究科を設置すべきである。

(専攻科)

富山県立大学に専攻科を設置し、総合衛生学院が担ってきた保健師・助産師の養成機能の継承を希望する。

第3回検討委員会は、12月~来年1月頃開催し、大学院・専攻科の教育課程、入学定員等について検討することとなった。

5 自由討論時の主な意見

(大学院のあり方に関して)

- ・ 公的病院の看護師をはじめ、大学院の修学を希望する社会人は多い。社会人修学のための環境整備が必要だと思う。
- ・ 大学院の教育課程や専門看護師の養成課程については、高齢化率が非常に高い富山県の特徴を踏まえれば、老年が考えられる。また、富山県は糖尿病の

死亡率が全国4位、人口あたりメタボ該当者が全国ワースト10位といったことがあり、慢性も考えていただきたいと思っている。

- 新卒学生だけでなく、意欲のある現役の看護師が学べる道筋を作ってほしい。いくつかのハードルを越えれば大学院に修学でき、そこで深く学びステップアップできるようにしてほしい。
- 医療・介護・福祉の現場では、高度な能力を求められており、大学院でしっかり養成してほしい。
- 大学院修士課程では、専門看護師の養成が期待される。分野については、現実はどういう教員人材が準備可能なのか、富山県のニーズを考慮しながら十分考える必要がある。老年、慢性、地域、在宅といったニーズが高いようなので、例えば、在宅に強い老年を育成できる教育課程とするなど考えてはどうか。
- 社会人修学の環境整備については、リモート講義の活用も考えてはどうか。
- 現在、県立中央病院では、2割が大卒看護師で、少なくとも4名が大学院で学びたいとしている。専門看護師以外で最新の高度な医療を学びたい意欲のある看護師もいる。今後、県立大の卒業生が増えれば、大学院に修学したい看護師も増えていくと思う。
- 専門看護師の分野については、近県にないものを検討してはどうか。
- 社会人修学に配慮をお願いしたい。訪問看護ステーションにも意欲のある看護師は多くいる。そういう人が学べるようにしてほしい。
- 教育課程や研究分野は、在宅、老年が希望だが、教員のご都合もあると思うので、お任せする。
- 大学院は、県のニーズや周囲の大学との競合を勘案して研究分野等を検討すればよい。一般的には、老年、慢性といった分野があると地域に貢献する人材が育成できると思う。
- 社会人修学生については、実践している現場で研究課題を見つけ、その論文を認める等工夫してはどうか。
- 社会人教育は大変重要であり、意欲を持つ方にしっかり応える教育をしてほしい。富山県はコンパクトではあるが、リモート講義も検討する必要がある。

(専攻科のあり方に関して)

- 専攻科には、統括保健師の養成を期待する。保健師が管理、コーディネート学ぶ機会が少ない。
- 専攻科については、このままだと保健師、助産師の養成は1年のブランクができるが、最小限にすること。今回のコロナ禍で保健師の不足が露呈したし、助産師は恒常的に枯渇している。

- ・ 統括保健師は、1年（の履修期間）では、厳しいかもしれない。
- ・ 助産師のニーズが高いのは、定着率（が低いこと）もあるのではないか。
- ・ 日看協生活習慣病WGに参加しているが、生活習慣病予防における保健師の役割は拡大している。また、地域包括ケアシステムにおける保健師のコーディネータは、地域にとって重要である。
- ・ 産科のある公的病院は24中10病院。県立中央病院には、他県出身者も含め、毎年6、7名の助産師の応募があるが、全く応募がない病院もある状況で、（履修期間1年の）専攻科設置はありがたい。
- ・ 定着に関して言うと、若い助産師は、妊娠・出産・育児のため、どうしても離職してしまう。
- ・ 専攻科の定員については、現在の総衛学の実学生数を参考に検討してはどうか。
- ・ 認知症の外、小児や精神の在宅ケアにおいて、保健師のコーディネータが重要な場面が多くある。
- ・ リーダーシップがあり、将来、病院の看護部を背負う人材を育ててほしい。
- ・ 専攻科については、単に資格を取るためではなく、地域に貢献できる人材を教育するものにする必要がある。

（大学院・専攻科のあり方、その他全般に関して）

- ・ 令和4年には、保健師助産師学校養成所指定規則の改正（保健師、助産師になるための単位が増える。）がある。マネジメントに強く、ICTを活用できる保健師、助産師の養成を見据えて、（専攻科の）前段となる4年間（学部教育）で基礎看護学をしっかり学び、専攻科から大学院に進学するなど、学部・専攻科・院がきっちり連携した教育課程を検討する必要がある。
- ・ コロナ対策については、医療現場は進んだが、介護現場は脆弱であり、感染症対策に係る人材の養成は今後重要だろうと思っている。
- ・ アンケート結果から、一定のニーズがあることは明らかである。訪問看護ステーション、介護老人保健施設でもニーズがないというわけではない。
- ・ 県立大のミッションとして、地域医療構想などを踏まえた県民目線に立った運営が求められる。
- ・ 近県の大学の定員の充足率、入試倍率を次回検討会で示してほしい。
- ・ 定着率の話があったが、県立大を卒業した学生たちが、富山県に定着して働いていけるような環境づくりが必要。若者たちに働きやすい環境を整えるのは、我々大人の仕事である。
- ・ まずは、（県立大の）1期生がどれだけ、富山県に残るのか。期待している。